

風青き チャイコフスキー

府中市民響
× 喜古恵理香

Erika Kiko・指揮

グlazノフ 演奏会用ワルツ第1番

A. Glazunov: Concert Waltz No.1

チャイコフスキー バレエ組曲「くるみ割り人形」

P. I. Tchaikovsky: The Nutcracker Suite

チャイコフスキー 交響曲第4番 ^{短調} 作品36

P. I. Tchaikovsky: Symphony No.4 in F minor, Op.36

2025年

5月25日(日) 13:30 開場 / 14:00 開演

府中の森芸術劇場 どりーむホール 全席自由 1,000円 <当日券あり>

14:00 start, Sunday, May 25th, 2025 at Fuchu-no-Mori Theater "Dream Hall"

チケット
の取扱い

窓口販売：府中の森芸術劇場チケットセンター 042-360-4044 ※電話予約不可
<窓口販売期間：4/2～10-17時・5/1～5/24 10-18時> ※「チケットふちゅう予約センター」とは異なります
電子チケットサービス "teket" <https://teket.jp/8978/46501> ▶
<電子チケット販売期間：3/1～5/25 15時まで>



- 点字チラシとプログラムをご用意しております。詳細は当団 Webサイトをご覧ください。
- 小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。● 出演者へのプレゼントのお預かりはいたしません。

お問い合わせ：info@fuchu-cso.org / 大橋康廣 042-368-6180

主催：府中市民交響楽団 <https://www.fuchu-cso.org/> 後援：府中市 協力：点訳ボランティアてまり



京王線東府中駅下車徒歩約7分

指揮 喜古恵理香

Conductor
Erika Kiko

東京音楽大学音楽学部作曲指揮専攻（指揮）及び同大学大学院指揮研究領域に学び、これまでに指揮を広く上淳一、汐澤安彦、下野竜也、田代俊文、三河正典の各氏に師事。在学中、オーケストラアンサンブル金沢主催の井上道義氏による指揮者講習会にて優秀者に選出され、同講習会のリレーコンサートに出演。2017年9月からNHK交響楽団よりパーヴォ・ヤルヴィ氏のアシスタントに任命され、2年間アシスタントコンダクターを務めた。また2016年から4年間、京都市ジュニアオーケストラの活動に副指揮者として携わる。これまでに広島交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラアンサンブル金沢、札幌交響楽団、日本センチュリー交響楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団等と共演を重ね、今後も全国各地のオーケストラと共演予定。オペラの分野ではNISSAY OPERA「アイナ・ダマール」の日本初演に携わったことをきっかけに、NISSAY OPERA「ドン・ジョヴァンニ」「コジ・ファン・トゥッテ」「ラ・ボエーム」「カプレーティ家とモンテッキ家」「マクベス」、藤原歌劇団主催「蝶々夫人」、二期会主催「フィテリオ」、新国立劇場主催「魔笛」「アルマゲドン」の夢」「ファルスタッフ」、びわ湖ホール主催「ばらの騎士」など多数公演において副指揮者を務める他、びわ湖ホール主催公演ファンタジックオペラ「泣いた赤おに」にてびわ湖ホール声楽アンサンブルと共演。2022年、広島で行われた次世代指揮者コンクールにて第3位入賞、同時に聴衆賞、オーケストラ賞を受賞。



チャイコフスキーは生涯で...

交響曲第1番～第4番、一昨秋に当団が演奏した「マンフレッド交響曲」、そして第5番～第6番と、7つの交響曲を作曲したが、このうち第4番・第5番・第6番の3曲は「後期交響曲」と分類され、人気が高い。

1877年、37歳のチャイコフスキーは苦悩の人だった。見知らぬ女性から手紙で熱烈に求婚され、断り切れずに結婚してしまうも3ヶ月とたたずに破綻（そのうち一緒に暮らしたのは1ヶ月あまり）、入水自殺まで図り、彼女から逃げるように旅した先のヴェネツィアで、第4番を書き上げる。

一方でフォン・メック夫人という強力なパトロンが現れ、作曲に専念できるようになったのもこの頃だ。パトロンと言えども夫人とチャイコフスキーは一度も会うことはなく、代わりに濃厚な文通が続いた。交響曲第4番はフォン・メック夫人に捧げられており、夫人への手紙の中で曲の標題についても語られている。

チャイコフスキー自身が『運命』と表現した金管楽器のテーマで始まる第1楽章、あ～これぞチャイコフスキー！と今は思えるが、当時は斬新だったに違いない。暗くて悲痛なメロディが押しつたり引いたりを繰り返した後、木管楽器による『甘く優しい夢』が現れるが、じわじわとそして何度も押し寄せてくる『運命』には打ち勝てない。まさに『人生とは現実とつかの間の夢が繰り返されること』... 深い言葉だ。

第2楽章『憂鬱』メランコリックな旋律が繰り返され、途中明るく希望が見えるものの『人生は疲れるもの』と再び『憂鬱』に押し流され、消え入るように終わる。

一転して第3楽章は『特定の感情ではなく（中略）捉えどころのないイメージ』とのこと。弦楽器のピチカートと管楽器の陽気な中間部による、おどけた楽章。弦楽器は長いピチカートのために弓を置いて演奏するが、この弓、どこに置かかか実は悩みどころでもある。

そして熱狂の第4楽章、『自分自身の中に喜びを見出せないのなら他の（楽しんでる）人を見てください』、世の中捨てたもんじゃないよと、とにかくドンチャン盛り上がる。第1楽章冒頭の『運命』が再登場し、死に絶えるかと思いきや、ついにそれをもはね除けてクライマックスへ ...。

* * *

今回初めて指揮者にお迎えするのは、大人気で多忙を極める喜古恵理香先生。オーケストラを爽やかに明るく引っ張ってくださり、まさに新しい風が吹いているようです。プログラム前半には皆さま馴染みの「くるみ割り人形」、そして、なかなか演奏する機会のないグラズノフの作品を組み合わせました。

緑濃い季節、1年間の改修工事を終えて生まれ変わった府中の森で、チャイコフスキーの風（嵐？）をお楽しみください。

デザイン：原田和香（チェロ）